

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
51

2017 弥生・卯月

特集

宗道臣デー活動で、地域に架け橋を



特集

宗道臣デー活動で、地域に架け橋を

毎年5月は「宗道臣デー月間」。社会貢献活動は道院活動の中でも重要な一つであり、とりわけ全国一斉に展開される宗道臣デー活動は地域へのアピール性も高い。少林寺拳法創始70周年の今年、地域の「架け橋」となれるような宗道臣デー活動にしましょう。

社会貢献活動は道院活動の一つ

1947（昭和22）年10月、多度津町にある開祖の自宅の一室の5畳半を道場に、少林寺拳法が産声を上げます。そして翌年の12月に「黄正教団」が設立。その道場は「本部道院」と名付けられました。

黄正教団、そしてそれを引き継ぐ今の「金剛禅総本山少林寺」は、釈尊の正しい教えと達磨大師の伝



える行法を現代に生かす教団として組織されました。それは既存の宗教団体・法人の活動定義にとらわれない、人づくりによる国づくりを目的とする社会教育団体として、全く独自の路線を歩むものでした。

開祖はこの本部道院で、常日頃から「みんなで見よ世の中をつくらう」と声をかけられました。この言葉に多くの若者が感銘を受け、入門を決意したといえます。

以降、少林寺拳法の隆盛とともに全国各地に「道院」が設立され、道院が金剛禅の布教拠点として重要な任務を負うようになります。

道院では、多くの老若男女が少林寺拳法を単なる武道やスポーツではない金剛禅宗門の「行」として、日々修行に励んでいます。時には道院の外に出て、開祖が目指された「みんなが住みよ世の中」を目指し、地元地域において社会貢献活動も実践してきました。

「架け橋たれ」を宗道臣デー活動のテーマに

中でも年に一度、全国の道院が同時期一斉に社会貢献活動を展開する宗道臣デー月間（5月）は、少林寺拳法の社会認知度を上げるうえでも絶好の機会です。

とりわけ、ことしの宗道臣デーでは、少林寺拳法創始70周年の年であることから、そのテーマを「架け橋たれ」とし、宗道臣デー活動が地域や世代を超えたつながりや往来を生む「きっかけ」の年にいたします。

「架け橋」は元来、人が行き交うものです。宗道臣デー活動においても、実施側の一方通行に終わらず、双方の行き来を心がけた内容とすることで、地域の方々との互いの理解が深まることにもつながり、より強固な信頼関係が築けるのではないのでしょうか。



担当／永安正樹

地域を巻き込んだ 宗道臣デー活動

よく挙げられる宗道臣デー活動に、「地域清掃」「福祉施設の慰問」などがあります。

どちらも社会の福祉に貢献できる、少林寺拳法らしい、すばらしい活動です。

そこで例えば、「地域清掃」について次のような工夫や仕掛けをしてはどうでしょうか。

道院の地域清掃の日程と、
地域自治体の清掃日を合わせ、
合同開催とする



一例として、本山での取り組みを紹介します。これまで本山の宗道臣デー活動では、少林寺拳法グループの職員がそれぞれ多度津町内に分かれて清掃を行うのが主でした。もちろん町内の方からは喜ばれ、作業中はお礼を言われたりもしていたのですが、数年前からは本山が区域内にある町内会にお声がけをし、町内会の清掃活動日と宗道臣デー実施日を合わせて行うようにしたのです。

本山の若い職員が担当者となり、実施日のずいぶん前から町内会長のご自宅に何度も伺いし、共に計画を練るようになりました。

県外から入局したその職員は、本山のふもとの僧院に住んでいました。多度津町内といえば、本部道院と銀行、郵便局、多度津駅のほか、近所のスーパーや飲食店程度しか知らなかったそうです。しかし町内会長のお宅で地図を広げ、清掃場所を整理するうちに、多度津町には魅力的な史跡や古い町並みが隠れていたことを、改めて知ることができたといえます。

また宗道臣デーの当日、職員と町民の方々が交ざる形で班ごとに分かれ、清掃活動に出発するのですが、ある職員(やはり県外出身)は道すがら、町民の方から、多度津の古い歴史

史や今の町の状況などを説明してもらったそうで、「10年以上も多度津にいますが、知らないことが意外に多く、新鮮な散策になりました。町内の方ともこんなにおしゃべりしたのは初めてです。少林寺拳法を育んでくださった多度津町と地域の方々を、もっと好きになりました」と興奮交じりに語ってくれました。

活動後に、町内会長のSさんは、次のように話してくれました。「多度津もずいぶん高齢者が増え、若い人たちが少なくなってきました。掃除も手が行き届かなくなってきたところを少林寺拳法さんに助けていただき、ありがたいことです。何より、若い人たちと交流できたのが本当にうれしい。町内会に活気が出ました。また、古くから少林寺拳法のことを知っていたつもりでしたが、こうして一緒に活動をして、何を目標している団体なのか、改めて分かった気がします」

この清掃活動をきっかけに、町内会の防災訓練を本山職員もお手伝いするようになったり、本山施設に町内の方々を招待したりするようになり、まさに宗道臣デーが架け橋となっており、職員・町民の方々とのつながりがより強く感じられるようになったのでした。

「伺う」から「招く」へ

「福祉施設への慰問」では拳士が施設へ伺い、施設清掃や施設利用者との触れ合い、道院長の法話、演武披露、少林寺拳法健康プログラムなどをされる道院もあります。そこで例えば、

施設利用者を、
専有道場へお招きする

としてみてもどうでしょうか。行う内容は、慰問と変わりません。



施設利用者にとって、施設での変わらない毎日に、ある日元気な子供たちや若者がやってくる、というのはもちろん楽しい出来事でしょうが、さらに「お出かけできる」「いつもと違う空気が吸える」という催しは、もっと刺激的で、楽しい出来事に違いありません。

同じ法話でも、本尊・礼拝施設をバックに行くことで、やはりその内容や意味も大きく違って受け止められることでしょう。また祭壇のある施設にお招きすることで、いつも来てくれる少林寺拳法さんは、「金剛禅」という身心一如の教えを説く教団だったと初めてご理解いただけるかもしれません。

ただ、そうなれば、施設利用者の移動の手間も発生するため、安全管理面において、施設職員との入念な打ち合わせや、受け入れる幹部拳士の理解や協力も不可欠になります。しかしこれは、前述の町内会長宅へ訪問・相談したときと同じで、互いの状況を、より深く知るチャンスにつながります。時には、これまであまりお見せしていなかった、互いの実情といったものを説明しないといけない場面も発生するかもしれません。しかし、だからこそ、いざというときに本当に助け合える関係を生

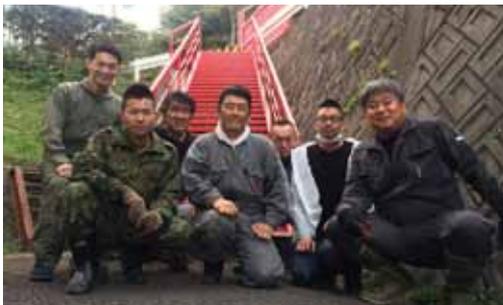
み出すきっかけにすることもできるのです。

このように、「単独で行う」「伺う」というこれまでの活動が、「共に行う」「招く」と変化することで、周囲の方々との心の距離がぐっと近づくはずですよ。

開祖が目指された「みんなが住みよい世の中」への第一歩に、皆さんの道院でどのような宗道臣デー活動が実践できるか。……考えただけでも胸が躍りませんか！



僧院階段塗装の風景 (2016年11月26日)



参加所属

【全自衛隊少林寺拳法連盟】 善通寺自衛隊
 【四国実業団少林寺拳法連盟】 百十四銀行・タダノ
 【香川県教区】 善通寺中央道院

大駐車場門扉塗装の風景 (2016年4月30日)



参加所属

【全自衛隊少林寺拳法連盟】 善通寺自衛隊
 【四国実業団少林寺拳法連盟】 大塚今切・JR 四国・
 百十四銀行・KDDI 四国・タダノ
 【香川県教区】 善通寺中央道院

奉仕活動

2016年、全自衛隊少林寺拳法連盟・四国実業団少林寺拳法連盟の方々のご奉仕による本山施設への塗装作業がありました。参加された皆様のおかげで本山施設が彩りを取り戻しました。心よりお礼申し上げます。



開祖語録 ダイジェスト

1972年9月
指導者講習会



男と女の話を例にすれば、恋だ、愛だと
思っているながら、実際には打算で成り立っ
ている関係、あるところか、実は、かなり
多い。

これだけ貢いだし、尽くしたんだから、
これぐらいの見返りがあって当然という気
持ち、君らだって皆無とはいえないだろ
う。無意識かもしれないが、心の隅のどこ
かにあるはずだ。

恋愛の最中には気がつかなくても、何年
か一緒に過ごすうちに、互いに見えてしま
うこともよくある。つまり、残念だけれ
ど、人間は見返りを求めたがる動物なん
ですね。

でも、やはり、それは愛情とは本来無縁
であるべきだし、また本当に芽生えた愛な
ら、ごく自然な行為として相手をいたわ
る、思いやることができるはずですよ。

けれども、性別や人種などを超えた人間
同士の関係、とりわけ人類愛的愛、これは
ひどく難しい。あるところまでは可能で
あっても、最後の最後まで貫けるかといっ

「人間関係の豊かさに価値を感じる」と
いう考え方を人類規模で深めたい

たら、私も胸張って「できる」とは言い切
れない。

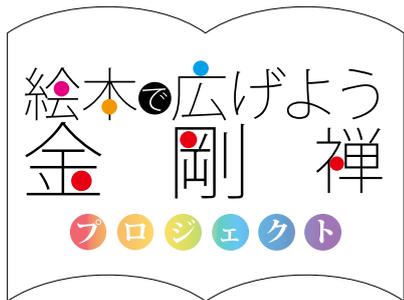
なぜなら、こうした愛、信頼関係は、損
得や打算の中には決して成り立たない、あ
るいは長続きしないからです。

だから、これは極論かもしれないが、
「心から思ったら、心から与えて喜びを感
じられる、してあげて本当によかったと思
う」、そういう気持ちがあるから、まだ正直だと
私は思います。

で、「幸せ」とか「生きがい」というもの
は、人によって捉え方はさまざまです。し
ょう。が、私は、人間関係の豊かさ、これし
かないと考えている。

そして金でも地位でも、力でも強さで
もない、「人間関係の豊かさに価値を感じ
る」、この考え方が人類規模で深まって
いったとき、真に幸せな世界が可能になる
と信じている。いい歳して青臭いと笑われ
ようがかまわない。確固たる自信を持って
そう信じている。

子供たちは、なぜ木が笑うようになるのか興味深く黙っ
て絵本の世界に入り込みます。ページをめくるたび、だん
だん前のめりになり、次第に百歳の木と同じ笑顔になっ
ています。指導者は、この木のようにかっこよく堂々と前
に立たなくてはなりません。しかし、自分では気づかず、間
違った姿で子供たちの前に立っているとしたら、“見てい
るつもりが見られている”、そう気づかされたとき、指導
者自身の表情が変わり、行動が変わります。ありのままの
自分をさらけ出したとき、子供たちの笑顔で一体感が生ま
れ、「組手主体」を体感できるようになります。



浜名新居道院

山本 直也

素の自分になったとき、 笑顔と一体感が生まれる

この絵本に出会ったとき、さまざまな感情で心が満た
されました。森の中で、どんなときもくじけず、かっこよ
く堂々としている百歳の木。でも本当は、友達が欲しくて
寂しくてしかたがありません。あるとき、寂しさに耐えき
れず、うなだれてしまいます。ありのままの姿になること
で、たくさんの動物たちに親しまれ、友達になることがで
きた木は、やっと笑うことができ、幸福になります。

今回読んだ絵本

百年たってもわらった木

文：中野 美咲

絵：おぼ まこと



森の中で、堂々とたくましく立ち続ける“百歳”の木、周囲の声に
耳を傾けたとき、必要とされている姿と自分の理想との違いに気
づきます。自己確立、自他共楽とは何か。心に深く届く絵本です。

不運であつたとしても不幸にならない ……そんな社会が

恒例のバザーの日が近づいてきました。今年も、またお会いできるでしょうか。お父さんも、お母さんも高齢になってきましたので、運営に参加できない方もおられます。40年近くたてば、親も高齢ですから。ふとしたきっかけで、お邪魔するようになった福祉施設。父母の会をまとめておられる方と、前夜に酒を飲みながらお話をするのが、いつものスタイルでした。野球の話や、昔の話、とりとめのない話を楽しく。

その方は何にも言わないけれど、私は違うところで聞いた「子供が自閉症と診断されたとき、私と家内は目の前が真っ暗になった。でも、『障がいを持って生まれた子供は不運であっても、不幸ではない人生を送ることはできる』というお医者さんの言葉に支えられてね、子供の『不幸でない人生』を探しながら今日までやってきたように思う。親の自分が死んだら、どうなるかな。日本の社会が、福祉政策が温かくて、頼りになるものであるといいのだが……」という言葉を思い出します。この施設ができたころは、18歳になると認可施設を出され、行くところがなかったそう

です。卒園しなければならぬ超重度といわれる肢体不自由者の成人の入所できる施設として、県内に初めてできたものでした。「誰もが人間として尊厳が保たれ、安心して共に生きる社会を目指す」という理想を掲げ、変わることをなく、「利用者とその家族、そして職員の熱い思いや志を、多くの方にご助力を頂きながら、必要な事業として立ち上げ、大きく成長」してきました。

ホームページには、「社会情勢は、創設当時から大きく変わり、措置から利用契約へ、国などの補助金も得にくくなり、社会福祉法人にも運営だけでなく経営を求められるようになりました。障害者自立支援法は廃案となる方向で、制度や仕組みは変わっていきます」。それでも「創設の理念を守りながら、新しい時代に新しい考え方ややり方など具体的に組み組むために、……体制を整備していきます」と書かれていました。看護師の求人情報を見ると、「日勤のみなので、私生活とのバランスもとやすい。住宅手当や家族手当、資格手当などの支給があり、働きやすい」とありました。法律の上では必要不可欠

な人材の募集であり、なかなか確保しにくいのでしよう。

理想のために、他人から見ても生活を犠牲にして福祉の仕事に携わる人々の地道な活動によって今日に至った組織も、成長とともに社会の環境と制約の中で変わっていくのでしょうか。理想が言葉だけのものでなく、また組織経営を維持する形骸化したうたい文句ではなく、生き続けている理想であり続けるのは、現場で働く職員の方々が理想を共有し、同時に時代や組織の実情に応じた現実的な改善が行われていくことが必要なのでしょう。そして、周囲の人々が理解し支え、社会がその理想を尊重し、行政や政治が法律と予算を与えることも。

施設が本当に必要にしていることを、私はよく分かってはいないけれど、「理想」を守って働いている職員の方々と、お父さんやお母さんの役に少しは立っていると思つて、今年もバザーのお手伝いに行こうと思つています。参加する学生や子供たちが、分かってくれることを期待して。私がいなくなつても、続いていくことを願つて。



法縁に感謝

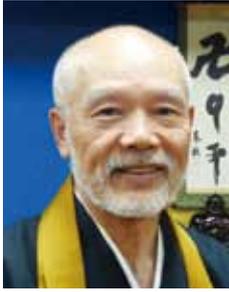
福島県教区 教区長 伊藤 寿弘

私は、1961(昭和36)年に、幕末の吉田松陰にも影響を与えたといわれる朱子学者・安積良斎あせかこうさいの出身地・郡山市で、兼業農家の長男として生まれました。3年後に東京オリンピックを控え、経済成長が活発になってきていたころです。また、少年時代は内気でひ弱な子供でしたが、当時はプロレスやボクシングの試合が頻繁にテレビで放映され、ブルース・リーの登場などで、私自身、格闘技に興味を持ち始めるきっかけとなりました。少林寺拳法と出会ったのは大学2年の春、当時すでに有段者だった友人の紹介で、81年に本部387期生として、矢島隆禪先生の川越道院に入門させていただきました。入門後は、まず護身術としての技の魅力に取りつかれ、さらに先生の法話を毎回楽しく興味深く、拝聴させていただきました。その中で、金剛禪の教えのすばらしさや、人に対する思いやりや責任感、行動力など人としてのあるべき姿など、細微にわたる教えを受けたことが、今でも心の支えになっています。また、憧れの「赤止」の胸章(当時)を付けていた諸先輩のおかげもあり、大学卒業間近の3月に三段の允いん可かを受けることができ、大変感謝しております。卒業後は、地元の郡山道院に転籍し、約3年

が経過したころ、前道院長(須賀川道院兼務)が諸事情により退任することとなり、25歳で須賀川道院長となりました。保護者は自分より年長者がほとんどで、運営のノウハウが分からないことも多く、大変な時期もありましたが、残された拳士のため、とにかく継続させる一心で奮闘していたのを覚えています。その後、次第に指導をサポートしてくれる協力者も増え、一時は在籍者が120人という時期もありました。とりわけ2011(平成23)年3月11日に起こった東日本大震災時には、福島県少林寺拳法連盟の事務局長を任されていたころでもあり、当時理事長だった田中勝義総代の下で県内の被害状況を収集し、少林寺拳法グループの対策本部へ報告するために奔走するなど、いろいろな紆余曲折うよくせつがありました。私事になりますが、その年の夏、本山より被災者支援の案内があつたこともあり、福島原発による放射能被爆を回避するため、夏休みに家内と子供二人(長女・中1、次女・小2)を本山の施設へ避難させていただきました。約1か月の本山での避難生活では、前代表の浦田武尚先生はじめ多くの方々で大変お世話になり、法縁の深さと絆の強さを感じつつ、私たち家族にも笑顔が戻り、苦境にありながらも癒やされる、生涯忘れぬ出来事となりました。震災から6年が経過した福島ですが、未

だ原発事故の爪痕が深く、先の見えない状況放射能汚染の除去や汚染土壌の仮置き場問題、被爆による健康問題など……です。そのような中でも、県内の小教区長と協力し、組織機構改革の柱でもある「金剛禪の充実」のため、そして教区内の道院の継続・維持・発展のため、尽力していきたいと思えます。また、私の運営する須賀川道院では、専有道場が手狭なため、修練場所として民間の施設を探していた折、地元商工会議所に勤める道院幹部から、「先生、いい物件がありますよ」と声をかけられ、大変よい施設だったので即刻契約に至りました。これにより積極的な道院活動が可能となり、時間に制約されることもなく、毎回20名程度の門信徒が集まり、修練に励んでおります。結びに、私が今まで続けてこられたのは、家族の理解と協力の下、開祖の熱い思いと金剛禪の教えに共感し、金剛丸の一員としての責任を全うしなければと思ってきたからです。「いかなる艱苦かんくに遇あうも決して挫折することなし……」と誓って入門し、35年が過ぎました。そして道院長を拝命し、今年で30年を迎えますが、一日でも長く金剛禪の「道」を歩み、いろいろな人と出会い、学び、思い出に残る「一里塚」を、これからもつくっていきたいと思えます。

ダイジェスト



志をつなぐ

佐藤 健二 198期生
中法師大範士八段

金剛禅の教えは、開祖が見たという
白衣殿(びやくゑでん)＝現・宝物殿の壁画が原点で
す。相手と向き合うことは、相手の息
吹、生命を感じ取ることです。互いの
命が、励まし合いながら鍛錬すること
で、「半ばは自分の幸せを、半ばは他
人の幸せを」の教えが組手主体の修練
の中に生かされてきます。こういった
得難い関係をつくる空間が道院です。
開祖はよく、「上にも下にも横にも、

人を育てることで開祖の教えを実感

綾糸のような人間関係をつくりな
さい。そうすれば幸せになれる。自分の
人生が豊かになる」とおっしゃって
ました。幸いにして私は、道院長をさ
せてもらうことで、たくさん縁に囲
まれ、数十年たった今、すごく幸せで
す。開祖の言われていたのはこういう
ことだったんだなど実感しています。
※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オ
フィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

錫杖の攻撃を如意棒で受け反撃(1976年)



ダイジェスト



道院長 vol.35 元気の素

大村三城道院
道院長 才津 行弘(44歳)

家族みたいな道院をつくりたい

周囲から慕われ、笑顔の絶えない
心地よい人間関係を築いておられる
道院長たちを見て、「私もそんな家族
みたいな道院をつくりたい」という感
覚が自然と湧き上がり、前道院長か
らの交代のお声かけがきっかけとな
り道院長となりました。金剛禅の主
行は易筋行ですが、その根本は人づ
くりの行です。その教えを繰り返し
伝えていくことが必要だと考えてい

ます。日々の生活の中で感じたこと
を題材に法話の充実を図っているた
め、子供たちは法話の時間が大好き
ですね。3年前からはPTA会長も
務め、子供たちや保護者と接するこ
きにも金剛禅の教えが基本となっ
ています。これらの活動を通すことで、
拳士数拡大の一助ともなっています。
※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサ
イトの全文もぜひご覧ください。



四国ブロック

日本商工会議所青年部四国ブロック大会

昨年9月23、24日の二日間、日本商工会議所青年部第33回四国ブロック大会多度津大会が、800名の参加により本山施設にて行われた。本行事は、多度津商工会議所青年部が主管を務め、本山が多度津町への貢献と金剛禪布教の一環として受け入れたもの。宗由貴少林寺拳法グループ総裁、大澤隆金剛禪本山少林寺代表も来賓として招かれた記念式典は、本堂を会場とし、厳かな雰囲気の中、太鼓・演武奉納で開幕。本山ならではの演出が参加者を喜ばせた。また、参加者に学びの場を提供する分科会では、「本堂の強さを知る」と題して、宗務部主導による金剛



禪に関するワークショップも行われた。四国を中心に集まった大勢の参加者は、いずれも経営者も幹部であり、そういった階層の方々

に金剛禪が知られることは、布教の大きな可能性となりうる。金剛禪に新しく触れた参加者から新たな縁が広がることを期待したい。

(宗務部)

岸和田道院

岸和田道院設立50周年記念祝賀会

去る10月16日、岸和田グランドホテルにおいて、市長はじめ道院長50名余り、道院関係者、拳士など総勢150名で、岸和田道院設立50周年祝賀会を執り行いました。設立50周年という大きな節目を迎えるにあたり、長きにわたってご支援・ご協力・ご尽力いただいた10名の方々に、感謝状と記念品を贈呈



いたしました。半世紀にわたり、活動を続けることができたのも、さまざまな人と出会い、そのつながりを、深めることができたからだと思います。(上野泰男)

福岡大川道院

福岡大川道院設立40周年記念式典

去る11月20日、柳川藩主立花邸御花にて、福岡大川道院設立40周年記念式典を開催いたしました。県内外の道院長、OB、保護者など総勢177名にご出席いただき、盛大な式典となりました。式典の記念品は、「家具のまち大川」ならではの木工製品(コースター、許可状用額縁)を拳士で共同製作しました。式典テーマ「継」の下、拳士一同、一丸となって準備を進めてまいりました。これからも道院長を中心に、郷土に根ざした活動を継続し、開祖の志を継承していくことを強く心に誓い合いました。

(森山史朗)



少林寺拳法グループ

70周年オープニング・本山新春法会

1月8日(日)、本堂において、少林寺拳法創始70周年オープニングが開催され、700名を超える参加者が見守る中、いよいよ記念年がスタートした。オープニング映像は、見る者一人ひとりにどのような架け橋の中で生きてきたか、また、これから何ができるか——を問いかける内容で、その後の宗由貴少林寺拳法グループ総裁挨拶では、社会が大きく変わる中、次世代へ誇りを持つて灯明を継いでいこうという力強いメッセージが発信された。その後は、新春法会が厳かに執り行われた。その中で、門信徒を代表して竹田則幸北海道地方教区総代が挨拶を行い、今こそ金剛禪が求められている時代と認識し、信念を誓い合った。なお、前日の認証式では、9名の新道院長が、式に臨む先輩道院長から温かい拍手を送られながら認証され、その後の表彰式では、140名の対象者に対して勤続表彰状が大澤隆金剛禪本山少林寺代表より手渡された。(宗務部)

少林寺拳法グループ

少林寺拳法グループ表彰

新春法会時、本山にて少林寺拳法グループ表彰が行われた。金剛禪本山少林寺からは、一人・一団体が受章した。

【個人】

- ・大西専七坂出専修道院道院長 約20年にわたり、拳士のみならず地域の法縁者と連帯・協力し、美化・清掃をはじめとするさまざまな社会貢献活動を継続している。

【団体】

- ・奈良信貴道院 これまで21回にわたり、少女拳士を中心とした特別養護老人ホームにおける交流会を企画実施し、世代を超えた地域のつながり・楽しみを継続的に創出している。

【他の受章者】

- ・少林寺拳法九州連絡協議会
- ・タンザニア連合共和国の名支部 (宗務部)



2016年12月度・2017年1月度 認証

●新設	太田西道院	上西 貴博	大和郡山道院	大倉 完仁
福井社道院	西尾 成秋	●道院長交代	岡山吉備道院	吉田 将則
神戸垂水道院	橋 満	石川大聖寺道院	福岡筑紫ヶ丘道院	中村 文夫

僧階昇任者

少法師	渡辺 竜彦(春江南道院)	迎田 展孝(大和桜井安部道院)	柏井 勝見(小田原道院)
■2016年11月20日付	松野 良弘(福井旭道院)	井戸家 正旺(東吉野道院)	中尾 龍二(伊豆長岡道院)
齊藤 敏也(札幌平和道院)	鈴木 豊(金山西道院)	末光 收(伊予松前道院)	植松 廣美(伊豆長岡道院)
斎野 光樹(福島桑折道院)	多月 文博(春日井鷹来道院)	権中導師	伊東 直樹(伊豆長岡道院)
石塚 英樹(つくばみなみ道院)	山下 研治(愛知浄水道院)	■2016年12月1日付	秋月 忍(名東道院)
野口 雅司(栃木小山道院)	平井 慎司(愛知朝日道院)	佐藤 正行(札幌あかしや道院)	大塚 朝美(愛知朝日道院)
永井 比佐志(南中野道院)	今井 偉夫(大阪富木道院)	小岩 裕基(盛岡北道院)	大江 明夫(山科道院)
太田 孝一(下高井戸南道院)	鈴鹿 成正(川西南道院)	伏見 均(浦和美園道院)	宮奥 史晃(東吉野道院)
佐藤 一司(横浜寿道院)	米田 友厚(榛原道院)	高橋 聡(町田南道院)	

法階昇格者

准範士	■2016年12月18日付	平田 安孝(東京久が原道院)	■2016年12月25日付	滝波 雅文(大野城南道院)
植田 真悟(南中野道院)		中森 清徳(広島城北学園)	竹中 司(東京滝野川道院)	

お布施

勤続50年表彰記念	▷京都教区.....10,000円
▷洛東道院 森川 是汪.....300,000円	▷札幌あかしや道院 阿達 美恵子.....10,000円
新春法会	布施
▷中津道院 竹尾 朝寛.....30,000円	▷豊田末野原道院 服部 俊美.....10,000円
▷倉敷南道院 小川 春彦.....30,000円	▷愛知石畳道院 中川 勝也.....10,000円
▷丸岡南道院 小嶋 鉄雄.....10,000円	▷徳島国中寺道院 藤田 武夫.....10,000円
▷北海道教区.....10,000円	▷愛知石畳道院 中川 江利香.....5,000円

訃報

富田 明史 <small>とみた あきふみ</small>	宇都宮西道院道院長、335期生、大導師正範士七段、2017年1月14日逝去、満69歳
横田 仁 <small>よこた ひとし</small>	東大阪中央道院(元道院長)、62期生、大導師大範士九段、2017年1月15日逝去、満83歳
山内 謙三 <small>やまうち けんぞう</small>	大阪美原道院道院長、251期生、大導師正範士八段、2017年1月30日逝去、満69歳

☆☆☆ 2017年度宗道臣塾ショートプログラムのお知らせ ☆☆☆

あなたが変わる瞬間がある！

◆開催日

- ①2017年4月28日(金)～30日(日)、定員30人、東京別院
- ②2018年2月10日(土)～12日(月・祝)、定員30人、東京別院

宗道臣塾(主催：一般社団法人SHORINJI KEMPO UNITY)は、少林寺拳法創始者・宗道臣(開祖)の薫陶を受けた宗由貴塾長、鈴木義孝講師が、直接あなたに開祖の志を伝承します。ショートプログラムは、レギュラープログラム(1泊2日×3ステージ)に興味・関心があるけれど、日程的に受講するのが困難な人に向けて用意された短期研修プログラムです。

少林寺拳法創始70周年を機に、開祖の志(原点)を再確認しませんか！

- 申し込み方法：マイページ>各種申込手続き>行事申込手続きより
 - 申し込み期限：①2017年3月31日(金)、②2018年1月19日(金)
- (詳細は、マイページ「お知らせ」画面をご参照ください)



編集後記▶今回の「特集」は、宗道臣デーについてです。5月に向けて、70周年テーマ「架け橋」に絡めた取り組みを考えておられる道院もあることでしょう。自分たちにできることで、誰かの役に立つことをやってみる。しかも見返りを期待するのではなく、自分たちの心を磨く行いの一つとして。それが宗道臣デーのいいところです。▶自分ができることで他のために何かをしてあげられることを、仏教では「布施」ともいいます。その布施を、私たちは少林寺拳法の修練の中でいつも体験しています。それは攻者として守者の相手をするときです。相手がうまくなるために、必要な攻撃をきちんとしてあげる。しかも、相手の腕前に応じて、どう攻撃してあげればいいのかも考えて。攻者はただの「やられ役」ではありません。▶そうした修行の延長線上に、当たり前のように宗道臣デーもあるのでしょう。毎年頂くどの報告写真からも、自然体で活動や交流を楽しんでいる様子うかがえるのです。(さ)表紙

紙▶三野 智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアート卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅

検索

あ・うん | vol. 51
金剛禅総本山少林寺広報誌 2017 弥生・卯月

2017年3月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：坂下 充

印刷・製本：牟禮印刷株式会社

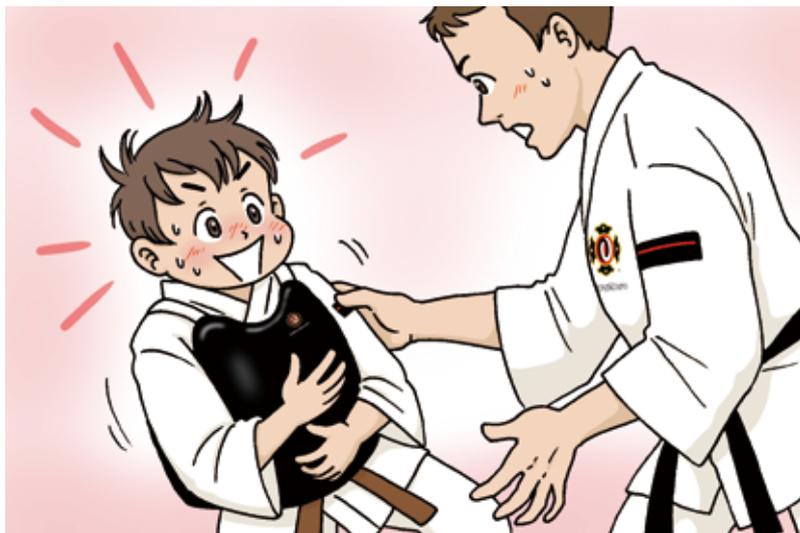
広報誌「あ・うん」追加発送について ◆◆◆◆◆

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10~20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山宗務部にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト/大原由軌子

飯塚中部道院 田中 祐二

少年拳士に教わった「本気」

学校が終わって、疲れた顔で道場に入って来る少年拳士。練習は休まず来ていたが、活気がなく、いつも小さな声で合掌礼。そんな彼が初段を受けたいと道院長にポツリとつぶやいた。
受験まであと2か月、道院長から指導の担当を任された。本人にそのことを話したが、返事は小さな声で「お願いします」の一言。どんな指導形態がいいのか、毎晩考えた。とりあえず組手主体の練習ばかり。「もっと気合いを出せ!」やる気はあるのか?とどなり声で指導することもあったが、本人には伝わらなかった。私のモチベーションも下がってきた。

そんなある日、いつものように彼が練習にやってきた。「きょうは剛法の練習をやるから防具を付けてきなさい」と言った。科目は内受突。「顔に当たってもいいから思いっ切り突いてきなさい」。彼は「本当にいいんですか?」の一言。その後、本当にしっかりと突いてきた。私もびっくりして、とっさによけて中段を思いっ切り突いてしまった。「しまった!」
怪我してないかなと思った。彼はよろけていたが、何とか立っていた。そのときである。彼の顔を見たとき、私は驚いた。彼の顔つき、特に目が輝いていたのである。「どうした、大丈夫か?」と言ったあと、彼から一言、「スゲエ、俺、先生の突きに耐えられた。強くなったんだ」と。
「すごいやないか、お前が頑張った証拠だ」「分かった。先生、これからも本気で相手して」。私はその一言で気付かされた。今まで自分のほうが「本気」じゃなかったんだ。そして深く反省した。子供は先生が本気じゃないというのを見抜いていたんだ。それから私も本気で彼と向き合い、彼もそれに応えてくれた。試験は見事合格。私は涙が出たが、そんな姿は見せられない。「よく頑張った」と声をかけて、心の中で「本気を教えてくれて、ありがとう」と思った。
今の彼は、大きく変わり、練習も休まない。今回もまた、少林寺拳法を続けてよかった、と思った出来事だった。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

Ni Oh Ken, Sotouke Geri



宗門の行としての少林寺拳法

におうけん 仁王拳
そとうけり 外受蹴

上段突^{じょうだんづき}をかわしながら外受し、蹴り返す。「外へ受け弾く」のではなく、「後方へ引き払う」ように受けるのが「外受」の特徴。また脇を締めるように受けることで防御から反撃への体勢が確保できる。外受突^{そとうけづき}に比べ若干外へ開くように足捌き^{さば}をすることで、蹴りの間合いをつくることことができる。

撮影/加々見一 文/永安正樹 演武者/守者: 富田雅志 大拳士五段 攻者: 倉本巨康 准範士六段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法